

The TENDAI journal

令和7(2025)年4月1日 火曜日
(毎月1日発行) 1部80円(消費税込・送料別)

天台ジャーナル

発行所：天台宗出版室
発行人：出版室長 坂本 圭司
〒520-0113大津市坂本4-6-2
天台宗務庁内 電話：077-579-0022(代)
Eメール：t-press@tendai.or.jp



広報天台

“不滅の法灯”が EXPO2025大阪・関西万博へ

伝教大師最澄1200年魅力交流委員会



EXPOホール「シャインハット」で滋賀県の魅力を伝える一日イベントの中で『比叡山延暦寺1200

年の伝承「不滅の法灯」奉安と天台声明の調べ』を主題に出演する。舞台では、比叡山延暦寺

EXPO2025大阪・関西万博(4月13日開幕)に伝教大師最澄1200年魅力交流委員会(鳥井信吾委員長・サントリーHD(株)代表取締役副会長)が参加することが決まった。7月24日の滋賀県デイ「びわ湖サマールーズ」において分灯された「不滅の法灯」を奉安し、天台声明を披露する。平和を願い1200年受け継がれてきた天台宗と比叡山延暦寺の祈りが世界の人々に紹介される。



令和2年に奉修された分灯式の様子



の自然と根本中堂の「不滅の法灯」が分灯される様子が映像で流れる中、歴史や法灯について大学コラボプロジェクトの参加学生が朗読し紹介する。そして天台宗僧侶約40名による天台声明が披露され、世界の平和と人々の安寧が祈られる。同委員会は、令和3年6月の宗祖伝教大師一千二百年大遠忌に向けて「伝承の心灯」をテーマとして令和元年5月に発足。滋賀県と京都府をまたぐ比叡山を中心に官民学宗が集い宗祖伝教大師の魅力、日本文化を次世代へ繋ぎ伝えることを目的に活動している。今回の参加はその一環と

し、『いのち輝く未来社会のデザイン』をテーマとする大阪・関西万博において、「人から人へと紡がれるいのちの尊さを伝え、世界平和を祈ってまいります」としている。また同委員会幹事の細野舜海天台宗宗務総長は「伝教大師のご精神を世界に向けて発信していきたい」と意気込みを話している。滋賀県デイの開催日は7月24日(木)。なお万博開催期間に合わせ比叡山延暦寺国宝殿では「2025大阪・関西万博特別企画『密教体験―曼荼羅と仏たち―(仮)』」が催される。延暦寺関連のパネル展示。また灌頂儀式の映像と堂内が再現される中、曼荼羅の上に花を投じてみ仏とご縁を結ぶ結縁灌頂の密教体験ができる。4月19日(土)～5月11日(日)、7月19日(土)～11月24日(月祝)。各期間内の土日祝のみ開催される。

極微

今、問題となっている少子化対策のポイントには、子どもを持つ以前、即ち、いかに若い世代を結婚に踏み切らせるかである。生れた子どもを今以上に手厚く支援することは、有効な施策だろうか。まず結婚しやすい状況をつくるのが大切だ。それには経済的な面をはじめ雇用環境など結婚後の生活に不安がないことが第一だ。多くの若者たちの間で「今の働き方では食べるのに精一杯」で「結婚などとてもとても」との声がある。婚姻数が減れば当然生まれる子どもの数も減る。もはや、なんとかしなければならぬところになっている。以前、民間の有識者グループ「人口戦略会議」が2050年までに全国の自治体の4割で、20代から30代の女性が半減し、最終的に消滅する可能性があるという分析結果を明らかにしていた。若者の都市流出などが原因だろう。この状況下で期待されているのが、海外から日本へ来る人たちだ。自国より高収入になるため、労働力不足の日本へ来て移住する家族、親族に送金するのだ。住み続ける人もいて、家族の呼び寄せもあり、日本にとっても唯一人口増が見込める層とも言われる。だが、かつては田の価値も高く、来日する人たちも多かったが、今後は減るのが心配だ。現況の不安状態では送金額は減るばかりで日本で働く意味がないのだから。さて、有効な打開策はあるのか。